

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
EU41C104		学級における個と集団のとりえ方の実践研究(Practice Study of How to Perceive Individuals and Groups in Class)					高度専門科目										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1	教育学研究科	前期	金1,金2	氏名 内田 昭利, 藤村 晃成, 後藤 竜太 E-mail k-fujimura@oita-u.ac.jp 内線 7545											
授業の概要	児童生徒の良さと個性が発揮され共感的な人間関係が育まれる学級経営を実践するための力を養う。学級における経営計画の実質化や学級経営上の問題へのより効果的な対応のための原理を理論的に学ぶとともに、学校現場の事例を題材とした演習に取り組むことで、現状の課題を発見し、具体的な対応策を立案・検討する能力を養う。具体的には、学級経営上の課題の現状、特に、教師と子どもの個別の関係に起因する問題、学級組織や学級規律の崩壊に至った問題などの過去の事例を分析し、課題解決に至るための学級経営計画を立案・検討する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	学級経営に関する基礎理論や実践的課題について、学問的視点から説明できる。																
目標2	児童生徒が置かれている現実や問題状況に着目し、そのとりえ方について議論できる。																
目標3	ディスカッションを行い、学級経営上の具体的な課題を他者との議論から分析できる。																
目標4	教育学の研究知見や方法論を援用しながら、学級経営実践の省察方法を用いることができる。																
目標5	児童生徒の良さと個性が発揮され共感的な人間関係が育まれる学級経営計画を立案できる。																
目標6	学級経営計画の立案・検討を通して、学校現場に活かすための見通しを表現できる。																
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	現代社会における学級経営の意義と課題																
2	学級経営の基礎理論(1):「学級経営」とは何か?																
3	学級経営の基礎理論(2):学級における「個」と「集団」とは何か?																
4	子ども理解の視点(1):不登校																
5	子ども理解の視点(2):学校外の居場所																
6	子ども理解の視点(3):特別支援教育																
7	子ども理解の視点(4):病弱教育・院内学級																
8	子ども理解の視点(5):子どもの貧困																
9	個と集団を捉える方法(1):学び合いのある学級活動																
10	個と集団を捉える方法(2):スクールカースト																
11	個と集団を捉える方法(3):地域とともにある学校づくり																
12	学級経営計画の作成(1)																
13	学級経営計画の作成(2)																
14	学級経営計画の発表・ディスカッション																
15	学習成果のふりかえりと評価																
ラ ブ ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	プレゼンテーション, ディスカッション, バズセッション					工 夫	そ の 他 の									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	プレゼン準備(10h)															
	事後学修	文献, インターネット等を用いた事例研究(10h)															
教科書	・小学校学習指導要領、平成29年3月告示、文部科学省、ISBN:4491034605 ・中学校学習指導要領、平成29年3月告示、文部科学省、ISBN:4827815798 ・高等学校学習指導要領、平成30年3月告示、文部科学省、ISBN:4827815674																
参考書	授業中に指示する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題・討論の取組など)	70%															
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%															
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	内田昭利（小，中，盲学校）/後藤竜太（小学校，教育委員会事務局）
実務経験を いかした教 育内容	小，中，盲学校教諭や学校カウンセリング等の実務経験に基づく子ども理解の指導を行う